

# 日刊

THE NIKKAN

# 工業

KOGYO SHIMBUN

# 新聞

10月12日 木曜日

2017年(平成29年)

# サブリ包装加工 増強

## 倉庫棟新設し一括出荷

## OEM引き合いに対応

### 中日本カプセル

【岐阜】中日本カプセル(岐阜県大垣市、山中利恭社長、0584・93・1013)は、サブリメントの包装加工を行う養老工場(同養老町)を増強した。倉庫棟を建設したほか、カメラ検査装置2台を導入。投資額は1億5000万円。品質管理と出荷体制を強化しつつ、包装加工能力を従来比2割高めた。受注が好調なOEM(相手先ブランド)生産需要に対応する。



(左)

養老工場に新設した製品倉庫棟

中日本カプセルはサブリメントのOEM生産を手がけ、本社工場、ソフトカプセル類の製品を製造する。養老工場ではアルミチャック袋、PTP包装などの加工を行う。

養老工場敷地内に新設した倉庫棟は、一部2階建てで倉庫部分が約500平方メートル。倉庫面積は従来比3倍で、200パレットを一定温度で保管できる。一括出荷が可能で、大量発注に応える。既存工場の倉庫機能を倉庫棟に移して空いた場所を包装加工室として活用し、作業スペース

1スを従来比2倍に拡張。製品の印字不具合とPTP包装の欠綻を検査する装置各1台を導入し、確認作業の自動化とスペース拡張による工程の整流化で処理能力も高めた。同社は食品メーカーや通販など約150社を取引先に持つ。トレーサビリティ(履歴管理)強化を求める市場ニーズもあり、製造から包装まで一貫受託する商談が増えているが、包装能力に制約があった。能力増強を機に、一貫受託の顧客を2018年10月期に10社増やし60社とする。